

年度 2009 学期 後期	曜日・校時	水曜日 4校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史－長崎大学史からみる日本近現代 Society and History ( Japanese Modern Times in the History of Nagasaki University )			
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室		
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:井手 弘人/Eメールアドレス:hirottoi@nagasaki-u.ac.jp 研究室:教育学部 5階 550号室 /TEL: 095-819-2316 /オフィスアワー: 毎週 木曜日 13:00～17:00				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標				
<p><b>授業のねらい:</b> みなさんは長崎大学がどうして長崎にあるのか、考えたことがありますか?そして、なぜみなさんは長崎大学の学生として今いるのでしょうか?「そこに長崎大学があったから」「長崎にあるけん、そりゃ長崎大学たい!」…いろいろな考えがあるでしょう。では、「長崎に長崎大学はどうしても存在しなければならないの?どこにでもたくさん大学はあるし、別に無くても困らないでしょう?」そう聞かれたとき、今、長崎大学の学生であるあなたはどうか答えますか?</p> <p>長崎大学 152年間の歴史は、日本がひた走ってきた近現代史と実に深い関係があります。長崎大学はその歴史の中で必然的に今の大学の形に育ちました。そしてその上にみなさんは今、立っています。「どうして理学部とか文学部はないの?」「水産学部とか環境科学部とかって他の大学には無いよね」「どうしてキャンパスが3つバラバラなの?」…皆さんの日常の何気ない大学への「なぜ?」が日本の近現代史と深く関わってまいります。この授業では、長崎大学の152年を振り返りながら大学と社会との関係を学んで「長崎大学が長崎にある理由」を考え、また、歴史を「使って」長崎大学とみなさん自身、それぞれの「自分さがし」を楽しむ時間にしていきます。</p> <p><b>授業方法:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「みんなのひとこと」: 授業の始めには、みなさんから授業ごとにもらう「一言コメント」を分析した結果をお知らせして、みなさんの意見や疑問をフォローアップします。</li> <li>(2) 「長崎大学と長崎・日本・世界」: 授業のメインになる講義です。いくつかの時代に区分して、長崎大学の様子とその社会背景を解説します。</li> <li>(3) 「授業の要約・一言コメント」: 授業の最後に、授業内容の簡単な要約と感想・疑問・意見などについての「一言コメント」をもらいます。書いてもらったコメントは翌週の授業で活用します。</li> </ol> <p><b>授業到達目標:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 長崎大学はどういう大学なのか、社会との接点の観点から歴史的に説明できるようになる。</li> <li>(2) 長崎大学は今後どのような大学に発展すべきと思うか、長崎大学の歴史的特性を踏まえて自分なりの考えを表明できるようになる。</li> <li>(3) 長崎大学の出身者として、これからどのような「学び」をすすめるか、将来どのような活動にたずさわって社会と関わろうと思うか、自分なりに言えるようになる。</li> </ol>				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
授業内容(概要)				
<b>第1部: 日本の近現代史と長崎大学の発展過程との関係を考えよう</b>				
第1回(10/7): 授業内容の説明, イントロダクション:「船のマークに込められた意味とは?」				
第2回(10/14): 「長崎大学の『創基』－日本に「大学」ができるまで」(幕末～明治20年代)				
第3回(10/21): 「長大＝熊大?長崎に九大ができる?－長崎大学らしさの基盤ができるまで」(明治後期)				
第4回(10/28): 「やっぱり『実学の地』は長崎－にぎわう游学のまち・長崎と長崎大学」(大正～昭和初期)				
第5回(11/4): 「変わりゆく長崎、そして『運命の日』－長崎大学が忘れてはいけない経験」(昭和10年代～20年8月9日)				
第6回(11/11): 「試練の連続。それでも前に進みはじめた長崎と長崎大学－復興・再生・そして成長へ」(昭和20年代～)				
第7回(11/18): 「特色ある研究と教育－長崎大学ならではの大学院づくり」(現代)				
<b>第2部: 世界・日本・長崎・そして自分と長崎大学との関係を考えよう</b>				
第8回(11/25): 「キャンパスをさるこう!－意外と気付かない?大学の隠れた名所」(ミニ・フィールドワーク)				
第9回(12/2): 「キャンパスをさるいてきたよ!－長崎大学・歴史発見プレゼン大会!」(プレゼンテーション)				
第10回(12/9): 「『大学ランキング』って何さ?－長崎大学をとりまく、グローバル化の波」				
第11回(12/16): 「『地方国立大学』って何さ?－田舎の大学?九大の下?それとも…」				
第12回(1/13): 「さあ新年!改めて考えよう、あなたはどのように『長崎大学人』?これからどんな『長崎大学人』?」				
第13回(1/20): 「これからの長崎、これからの長崎大学のあるべき姿は?」				
第14回(1/27): 「結局、長崎大学ってどんな大学?－自分の意見をまとめてみよう」				
第15回(2/3): 「最終討論:長崎大学の過去・現在・未来」				
キーワード	長崎大学史, 長崎, 近現代史			
教科書・教材・参考書	授業前・授業時に提示するハンドアウト(配布物)を中心に進めます。 参考図書, インターネットのサイトなどは授業時に適宜伝えます。			
成績評価の方法・基準等	<p>・100点を満点とします。評価の方法は以下の3つで行います。</p> <p>(1) 授業ごとに提出する「要約・一言コメントシート」(30点) ※未提出(未記入提出含む)は1回につき5点減点となります。 評価基準: 授業内容を適切に要約し、授業に対する意見・疑問を述べているか。</p> <p>(2) 「歴史発見プレゼン大会」(第9回)(10点), 「最終討論」(第15回)でのプレゼンテーション(15点) 評価基準: 歴史的な観点から参加者に分かりやすく、長崎大学の特徴を説明できているか</p> <p>(3) 「長崎大学生としての自分の現在・未来」レポート(45点。A4:3枚(字数3600字)程度) 評価基準: 自らの言葉で、かつ具体的に、長崎大学生として今後学びたいことを説明でき、かつ、長崎大学がこれからどう発展すべきか、提言することができるか。</p>			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標				
備考(準備学習等)	教養セミナーで学習した基礎的な「プレゼンテーションの方法」「レポートの書き方」をよく復習しておいて下さい。			